2024 ズバリ！的中 世界史

同志社大学

近世イスラーム帝国に関する空欄補充がズバリ的中

入試問題

2月5日実施
全学部日程（文系）
〔Ⅱ〕 1・5

〔Ⅱ〕 「近世イスラーム帝国」の歴史に関する以下の文章を読み，設問1～10に答えなさい。 (50点)

このうち，オスマン帝国は，1453年に（ a ）を攻略すると，その町を都として東地中海地域のほぼ全域に支配を広げていった。16世紀前半から中葉にかけて君主の座にあった（ b ）の治世には，東方でサファヴィー朝を破って（ c ）を獲得し，北方ではオーストリアの（ d ）家の本拠地であったウィーンを包囲するなど，軍事的に最盛期を迎えた。

一方，サファヴィー朝は，神秘主義教団(2)が，トルコ系遊牧民の軍事力によってイランとその周辺地域を平定して成立した（ e ）派の国家である。サファヴィー朝の統治は，それまでのイランにおける政権と同様に，軍の中核をトルコ系の遊牧民が占め，行政や財務はイラン系の官僚(3)が担う体制であったが，16世紀後半から17世紀前半にかけての（ f ）の治世に，様々な民族からなる君主直属の常備軍や銃兵軍を拡充した。

南アジアにおいては，16世紀前半に，中央アジアの（ g ）朝の王族が北インドに入り，それまで同地を支配していた（ h ）朝を破ってデリーを占領し，ムガル帝国の礎を築いた。16世紀半ばから17世紀初頭にかけて君主の座にあった（ i ）の治世に，検地による徴税制度の改革と，中央集権的統治体制の整備が進められた。また，人口の多数派を占めるヒンドゥー教徒との融和が図られ，非ムスリムに課される人頭税(4)の徴収が停止されるとともに，（ j ）制と呼ばれる国家の支配制度に，ヒンドゥー教徒の有力者たちも取り込んだ。

イスラーム教以外の様々な宗教を信仰する人々を統治下に置いたことは，オスマン帝国とサファヴィー朝も同様であった。例えば，オスマン帝国においては，[A]。「近世イスラーム帝国」は，イスラーム教に則った統治を理念とし，ムスリムの君主を戴きながら，イスラーム教以外の様々な宗教を奉じる人々を柔軟に取り込むことで，比較的安定した社会と繁栄した経済，多様な文化(5)を享受したとも言える。しかし，イスラーム教とムスリムの優位は維持され，ムガル帝国では，（ k ）の治世に，非ムスリムからの人頭税の徴収が再開された。

河合塾

大学受験科　基礎シリーズ
世界史　演習編
第9講　3

3　イスラーム世界の繁栄

ティムール帝国の衰退後，イランでは神秘主義教団の長である**イスマーイール１世**が，1501年に**タブリーズ**を都として（ 7 ）**朝**を開いた。彼は**シーア派**イスラーム教を国教とし，古代以来イランの王を意味する（ 8 ）の称号を用いてイラン人の民族意識の高揚につとめた。この王朝は，第５代の（ 9 ）の時代に最盛期を迎えた。彼はスンナ派のオスマン帝国と戦って領土の一部をとり返し，ポルトガル人をペルシア湾にある（ 10 ）島から追放した。さらに新都（ 11 ）を造営して，「（ 11 ）**は世界の半分**」といわれるほどの繁栄をもたらし，ヨーロッパ諸国とも外交・通商関係を構築した。その後（ 7 ）**朝**はオスマン帝国やアフガニスタンとの戦争などでしだいに混乱して崩壊に向かい，18世紀前半アフガン人の侵入により滅亡した。

オスマン帝国（**朝**）は13世紀末に小アジアからおこり，14世紀にバルカン半島に進出してアドリアノープル（現在のエディルネ）を都とした。（ 12 ）は，1396年にニコポリスの戦いでバルカン諸国を中心とする連合軍を撃破したが，その後小アジアに進出した**ティムール**に（ 3 ）**の戦い**で敗れた。しかし，オスマン帝国はまもなく勢いをもりかえし，**メフメト２世**は（ 13 ）年に**コンスタンティノープル**を占領し，**ビザンツ帝国**を滅ぼした。新たな都となったコンスタンティノープルは，以後（ 14 ）と呼ばれるようになった。16世紀初めには，**セリム１世**が（ 7 ）朝を破ったのち，エジプトの（ 15 ）**朝**を滅ぼしてシリア・エジプトを征服し，それまで（ 15 ）朝の管理下にあった二聖都（ 16 ）・**メディナ**の保護権を獲得した。その結果オスマン帝国のスルタンは，カリフ政治を継承するイスラーム世界の盟主として，スンナ派イスラーム教を守護する存在となった。オスマン帝国は，16世紀半ばの（ 17 ）のもとで絶頂期を迎えた。（ 17 ）は（ 7 ）朝から南イラクを奪い，北アフリカにも支配を広げたばかりでなく，モハーチの戦いに勝利して**ハンガリー**を征服し，1529年には（ 18 ）を包囲してヨーロッパ諸国に大きな衝撃を与え，さらに1538年には，スペインなどの連合艦隊を（ 19 ）**の海戦**で破って，地中海の制海権を獲得した。また彼はハプスブルク家の神聖ローマ皇帝**カール５世**（スペイン王カルロス１世）に対抗するためにフランスとの関係を強化し，フランス商人を優遇した。領内での居住や通商の自由といったフランス商人に許された特権は，のちに公式に認められ（ 20 ）と呼ばれている。その後オスマン帝国は1571年に

設問１　空欄（　a　）～（　k　）に入る最も適切な語句を次の語群より選び，その番号を解答欄Ⅱ－Ａに記入しなさい。

【語群】

1．アウラングゼーブ	2．アクバル	3．アグラ
4．アッバース１世	5．アドリアノープル（エディルネ）	
6．イスマーイール	7．イラク	8．ウマイヤ
9．カイロ	10．カージャール	
11．コンスタンティノープル		12．サイイド
13．サウード	14．シーア	15．シパーヒー
16．シリア	17．スコラ	18．スレイマン１世
19．スンナ	20．セリム１世	21．チュニジア
22．ティマール	23．ティムール	24．トゥグルク
25．ハプスブルク	26．バーブル	27．バヤジット１世
28．ハルジー	29．ハンガリー	30．ブルボン
31．ホーエンツォレルン		32．ホラズム＝シャー
33．マムルーク	34．マンサブダール（マンサブダーリー）	
35．マンスール	36．メッカ	37．メフメト２世
38．ラージプート	39．ロディー	40．ワッハーブ

設問５　下線部(4)に関連して，ムスリムの統治下において非ムスリムに課された人頭税を何というか，解答欄Ⅱ－Ｂにカタカナで記入しなさい。

（　21　）**の海戦**で敗れたものの，東地中海の制海圏はこの敗戦以後も保持し続けた。こうして，オスマン帝国は17世紀末までは広大な領土を維持し，東地中海世界の覇者として君臨した。しかし，1683年の第２次（　18　）**包囲**の失敗は，オスマン帝国に大きな打撃を与え，1699年の（　22　）**条約**によって，オーストリアに**ハンガリー**などを割譲した。

ティムール帝国滅亡後の16世紀初め，**ティムール**の子孫である（　25　）はアフガニスタンをへて北インドに侵入し，1526年パーニーパットの戦いでデリー＝スルタン朝の最後の王朝である**ロディー朝**を破り，デリーを占領してムガル帝国を建てた。（　25　）の孫の第３代（　26　）は，ムガル帝国の中央集権的な国家体制を整えたほか，都を**デリー**から（　27　）に移し，ヒンドゥー教徒に対して人頭税の（　28　）を廃止したり官吏に登用するなどの融和政策をとった。また，（　26　）は支配階層の統制をすすめ，維持すべき騎兵・騎馬数によって彼らを等級づけ，等級に応じて官位と俸給額に見合う土地の徴税権を与えた。これを**マンサブダール制**という。こうして（　26　）の晩年には北インドの大部分とアフガニスタンを含む広大な領土を支配するにいたった。しかし，（　26　）時代のムガル帝国の勢力は南インドには及ばず，南インドでは14世紀前半に成立した（　29　）**王国**などのヒンドゥー教の諸王国のもとで，海上交易が発展した。ムガル帝国第６代の（　30　）時代には，多年の外征により帝国の領土は最大となったが，厳格なスンナ派の立場からヒンドゥー教徒への（　28　）を復活したため，デカン高原の（　31　）**族**をはじめとする諸勢力の反発をまねき，（　30　）の死後，ムガル帝国は衰退にむかった。